

# 下野市立国分寺東小学校

## 1 学校課題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指して  
～ICT 端末を利活用した「対話的な学び」の充実 2年目～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

これからの教育は、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということが大切であり、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の資質・能力の三つの柱をいかに総合的に育てていくかが求められている。このためには学びの質や深まりが重要であり、これまで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「何のために学ぶのか」、そして「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視した授業の工夫改善に取り組んできた。昨年度からは「GIGAスクール構想」を踏まえて「ICT端末（iPad）利活用」に焦点を絞った「対話的な学び」の研究を推進し、既存のバンドルされたアプリに加えて新たに導入された大型モニターやGoogle Workspace等の各種のアプリを各教科等で指導者と児童がインタラクティブに活用することにより、少しずつではあるが「対話的で協働的な学び」が見られるようになってきた。そこで今年度はICT端末利活用の2年目として、これらの研究を継続して推進していきたい。また小中一貫教育国分寺中学校区実践研究テーマ『学び合いを深める 聴く、伝える、関わる力の育成』についても意識しながら継続して研究したいと考えている。

具体的には、今年度も基礎的・基本的な知識及び技能の習得のための日常的な学習指導とともに児童同士の協働、教職員との対話、地域の人との対話等を通じて自己の考えを広げ深めること、先哲の考えを手掛かりにして考えることなどの「対話的な学び」の工夫・改善についてICT端末を利活用しながら推進していく。それと共に家庭における実践についてもICT端末の持ち帰りを推進し丁寧な実践を重ねていくことで、シームレスな学びを深めていきたい。さらに学習指導要領では「学習の基盤となる資質・能力」の一つに「情報活用能力」が位置付けられたため、各教科等の特性を生かし、横断的な視点から情報活用能力の育成を織り込みながらのICT端末の利活用を充実させていく。

### (2) 研究の仮説

各教科等において ICT 端末を利活用した「対話的な学び」の工夫・改善を推進することにより、「見方・考え方」を働かせた深い学びの実現や学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の向上につながるものと考えられる。

## 3 研究内容

今年度の研究内容のうち、次の項目に重点を置いて研究を進めてきた。

### (1) 授業研究の活性化

- ①対話や交流が深まる授業の実践
- ②興味関心を高める効果的な導入や魅力的なデジタル教材の工夫開発
- ③学力向上推進リーダーとの連携による教師の授業力の向上

### (2) ICT 端末利活用の実践





- ①対話的学びを実現させる ICT 利活用の実践
- ②バンドルされたアプリや導入アプリ（Google Workspace 等）、コンテンツの利用促進
- ③児童の発表や表現などのアウトプットにおける利活用

### (3) 家庭学習における個別最適な学びの充実

- ①家庭と連携した ICT 端末持ち帰りによる家庭学習の工夫・改善

(4) S&U コラボ事業を通じた主題への取組

①授業研究会

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等	
7月11日	5年	国語「日常を十七音で」	<p>・よりよい俳句を作るための交流・推敲の場面での ICT 端末の活用</p>  <p>◎ Jamboard を使った推敲は、言葉の入れ替えや友達のアドバイスを色分けして表示することなどが容易で効果的だった。</p>	<p>・話合いのポイントを明確にした交流活動の設定</p>  <p>◎話合いのポイントを明確にしたこと、ICT 端末の資料を活用しながら話し合ったことは、よりよい俳句を作ることに繋がった。</p>
9月27日	1年	算数「なんじ なんじはん」	<p>・視覚的に時計の仕組みを理解させるための ICT 端末 (D コンテンツ) の活用</p>  <p>◎ D コンテンツの時計は、1年生にも扱いやすく、短針と長針が連動していることが視覚的に理解できた。</p>	<p>・時計の理解を深める交流場面の設定</p>  <p>◎ICT 端末、ワークシートのどちらを使うか選び、何時を示しているのかを定型文に当てはめながら、友達に説明することができた。</p>

②講話

月日	講師	講話内容
8月1日	宇都宮大学 人見久城先生	現行の教育課程が目指す方向、授業づくり・授業研究、個別最適な学び・協働的な学び、観点別評価について

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①「主体的・対話的で深い学び」のテーマの下、組織的に研究に取り組んだことにより、教員一人一人の意識が高まり、日々の授業改善につながった。
- ②各教科等の授業をはじめ、様々な児童の学びの場面で、ICT 端末が活用できないか模索したことにより、対話的な学びにつながる ICT 端末の活用方法を見いだすことができた。

(2) 研究の課題

ICT 端末を使うことがその授業において本当に効果的か、アナログの良さも踏まえ今後も検証していく必要がある。また、どのアプリがどんな場面に活用できるか情報を共有しながら、教員全体がスキルアップしていかなければならない。